

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 11 号



2012年5月24日発行
発行責任者 岡田守弘
芳川玲子
〒259-1292
平塚市北金目4-1-1
東海大学文学部心理・社会学科

東日本大震災から1年余り。少しずつ生活の場の復興、心の整理などが進んでいますが未だショック状態からの十分な回復はなしていません。この間、学校心理士が被災地で子ども達の心のケアに努め、学校に日常を取り戻すために協力したことが報道されています。また、心の問題や発達・健康上の問題の複雑化・多様化が課題となる中、「心理職者に国家資格を」といった動きもあります。

学校という子ども達の成長と教育に携わる場で、学校心理士に期待されることはさらに大きく、求められることは多岐に渡っていくでしょう。自ら学ぶ姿勢を持ち、今年度もこの神奈川支部の会員同士が刺激し合い活発に活動していくことを期待します。

2012年度の主な予定

●2012年度神奈川支部第15回総会・第30回研修会

日時 6月24日(日)

場所 石川町エルプラザ

第15回総会 14:00~14:30(受付13:30~)

第30回研修会 14:45~16:45 *Aポイント研修予定

「通常の学級における支援教育のあり方について」~授業のユニバーサルデザイン化~

講師 関戸 英紀 先生 (横浜国立大学教授・附属特別支援学校校長)

●第31回研修会

日時 10月14日(日)

場所 ウィリング横浜

「子どもたちのつまずきの背景を身体から考えるーみる・きく・うごくー(仮)」

講師(予定) 木村 順 先生 (作業療法士)

●第32回研修会 *横浜地区会主催

日時 2月下旬

場所、講師、内容共に未定 *スクールソーシャルワーカーの活動について取り上げる予定



第28回研修会報告

日時 2011年10月16日

場所 ウィリング横浜

「台湾の特別支援教育～システム、インクルージョン学級、訪問療育～」

講師 輔英科技大學 曹 純瓊 先生 通訳 東海大学 芳川 玲子 先生

【研修の概要】

台湾における特別支援教育に関して話題提供された。台湾では大学進学率がほぼ100%の高度学歴社会であり、教育費は国家予算の25%以上、特殊教育経費は市の予算の4.5%以上でなければならないことなど、日本との違いが最初に紹介された。

(1) 台湾における教育システム

日本と同じ6・3・3制であり、幼稚園～高校まで普通学級と特別支援学級が存在する。特別支援教育は2つに分けられ、発達の遅れなどの障害児教育と、資質優秀児教育である。普通学級でのインクルージョン教育（障害者と健常者とを同じ教室で学ばせること）が充実しているため、特別支援学校には重度の子どもが入学している。

普通学級の担任教師は学級に障害のある子どもがいる場合、補導室のアドバイスを受ける。資質優秀児教育では、飛び級はもとより、申請により学校教育を受けない方法もとれる。

(2) インクルージョン教育

1997年特殊教育法によるシステムであり、アメリカのシステムを模範としている。就学前よりインクルージョン教育を行う特徴（3歳児から行われている）があり、学校運営に自由度が高いためか完全融合が進んでいるのも就学前教育である。

特殊教育法では、すべての子どもに、それぞれの子どもに適した、バリアフリーなサービスを行うことを基本に、障害の理由で入学を拒否してはならないこと、普通学級（定員30名）で障害児1人受け容れる場合には定員を3名減ずることなどが決められている。

インクルージョン教育では、①受け入れの準備として必要な資料が補導室から送られ、保護者との面談による子どもの理解、保護者の協力度合いや保護者への協力要請を入学後1ヶ月までに行う。②入学後の対応としては、カリキュラムの調整、同級生の受け容れに関する準備を行う。具体的には、サポートしてくれそうな子ども（子ども先生）をお願いし、リソースルームで研修を受けさせる。子ども先生は学級では障害児をお世話したり、周囲の子どもへのモデルとなる。障害児の作品などを肯定的に評価することも子ども先生の役割となる。担任教師は子ども先生の活動を評価、サポートする。③リソースルームの活用として、普通学級に在籍してリソースルームを利用する方法、巡回の特殊教育教師による教育を受ける方法、他の学校のリソースルームに通う方法がある。リソースルームでは学習の補習、社会適応プログラム、キャリア教育、補導教師などによるカウンセリングなどが行われている。

(3) 訪問療育

①在宅教育(教育部管轄)は重度の障害をもち教育機関に行けない子どもを対象としている。週1、2度、教師が訪問して学科の学習、テストなどを行ったり、保護者へのアドバイス、教育資源の紹介などを行う。②在宅サービス(厚生省管轄、対象6歳以下)ではコーディネーターがIEP(個別支援計画)を作成し、ソーシャルワーカーが保護者への支援を行う。3ヶ月間行われ、以降は普通の幼稚園、デイケアサービスなどへ移行する。

第29回研修会報告

日時 2012年2月26日
場所 かながわサポートセンター

「川崎共生・共育サポートプログラム～いじめ・不登校のない学級づくりをめざして～」

講師 川崎市教育委員会 教育改革推進担当課長 小川 俊哉 先生

【研修の概要】

いじめ、不登校など、子どもたちの社会性育成を川崎市として喫緊の課題と捉えました。このような課題に対し、重点施策として共生・共育を掲げ、子どもたちの社会性や豊かな人間関係づくり、人間関係によるトラブルの未然防止等の系統的、計画的なプログラムを平成22年度より市内公立学校で特別活動に位置づけ年間6時間以上実施しています。

かわさき共生*共育プログラムのねらいは、体験を通して「人づきあい」の方法を楽しく学んだり学び直すことで、かかわりのスキルを獲得し自・他尊感情を高めることです。

研修前半では、じゃんけんのように二人で出した指の数を合わせて7を作る「ハッピーセブン」などのエクササイズを実施し、ファシリテーターの留意点などもその場で議論しながら進められました。配付された冊子にはエクササイズが多数紹介されています。このようなプログラムの実施により、子どもが現在の自分を否定することなく新たな努力をするようにし向けられている様子、教師からは年度初めや学級開きに活用したいという反応、保護者からも好意的な反応が実践後のそれぞれの感想として示されました。

研修後半では、効果測定及びそれを活用したケース会議の話題が報告されました。効果測定のねらいとして、次の3点が示されました。①事前の測定により気になる子どもを把握する。②それを資料としたケース会議を行い、学習や活動をスムーズに進めるように介入する。③プログラムの効果を検証する。

そのために、Q Uのような質問紙が構成されています。それは社会性・行動様式を捉えるための「言語的・解決スキル」「気遣い・サポート」「感情抑制」、学級の人間関係、所属感・仲間意識を捉えるための「信頼他者」「信頼自己」に関する28の質問項目で構成されています。図のようにスキル（社会性）を横軸、信頼度を縦軸にして学級の生徒それぞれの分布を表示できるアイテムです。子ども個人の状況、学級集団の状況をアセスメントすることができるため、学年教師によるケース会議で気になる子どもへのかかわり方を工夫することで、

スキルや信頼度高め、「満足・自己実現群」への移行をはかります。中学生を対象とした調査ではスキルと信頼度の相関が高い（.66）ことも示されました。このように、学年教師によるケース会議の実施を視点に入れていることから、共生・共育プログラムを全教員に浸透させる意図が理解でき、そして、市をあげて実施していることに驚かされました。有意義な研修会でした。

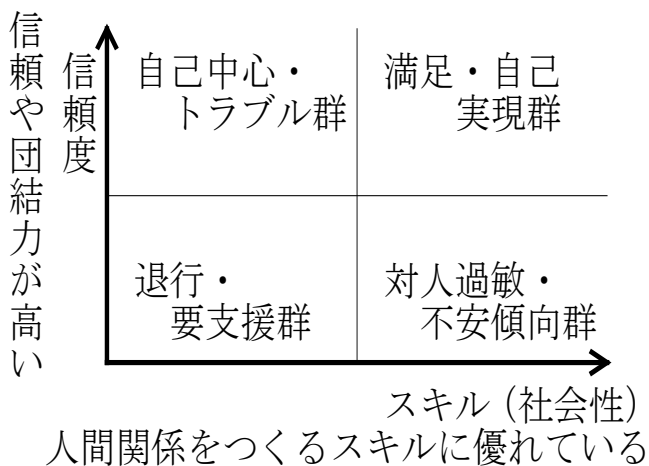


図 スキルと信頼感のバランス

地区会報告

研修会のお知らせ

—横須賀三浦・藤沢茅ヶ崎地区—

日時：6月9日（土）13:30~15:30
場所：鎌倉市福祉協議会 2F 第3会議室
内容：「子の最善の利益と離婚後の親子の絆」
講師：平松千枝子氏（元東京家庭裁判所主席調査官）
参加費：500円

他地区の会員参加も受け付けます。連絡先は kmiura@ga2.so-net.ne.jp

※12月と3月にも地区会研修会を予定しています。

本の紹介



「つまずきのある子の学習支援と

学級経営」

吉田昌義・河村 久・吉川光子・柘植雅義 編著 東洋館出版社 2800円＋税

通常級の中にいる気になる子ども達。その子たちの状態を捉え、適切な配慮が日常的にさりげなくできるとその子ばかりではなく周りの子ども達も過ごし易くなることでしょう。

本書は「子どもの行動をどのように理解したらよいか」「学級経営の方針—教師の意識で学級が変わる—」「教科指導の工夫」「保護者や関係諸機関との連携」など具体的に書かれています。章扉の上田豊治氏による素敵な切り絵も魅力的です。

お知らせ

日本学校心理士会 2012年度大会

- 期日：2012年8月20日（月）・21日（火）
- 会場：中部大学 春日井キャンパス（メモリアルホールおよび現代教育学部）
- 大会テーマ：学校心理士のさらなる活躍の場を考える
- 基調講演：

「今学校心理士ができる子ども・学校支援—危機の共有・責任の共有・希望の共有—」
「震災支援で学校心理士に期待すること」

詳しくは大会ホームページをご覧ください。多くのみなさんの参加をお願いします。

<http://gakkoushinrishi.com/>

【編集後記】新しい年度がスタートし職場には若い人たちが増えました。知識や経験はこれから積み上げていくにして、今は若いエネルギーで目の前のことをどんどん乗り越えています。エネルギーに満ち、吸収力の強さはうらやましいほどです。学校心理士会も若いエネルギーが欲しいと感じます。神奈川の学校心理士会が繋がりが広がっていくには新陳代謝も必要ではないかと思えます。このニューズレターは会員同士を繋ぐレターであり、これから会員になるだろう方々にも魅力を届けられたらと思います。ご意見ご感想などお寄せいただき、さらに魅力あるレター作りにご協力ください。

mail: ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp (編集部)